

「子ども(相手)の行動を理解しようとする事」

教育相談係では、子どもたちの思いや行動の背景・要因にあるものを「理解しようとする事」を大切にしています。

例えば、子どもが「この〇〇〇、おいしくない」など言ったとき、皆さんはどのように子どもを理解し、どのように声をかけますか。

前号の「冰山モデルによる行動理解」にあったように、「おいしくない」と言った1つの行動にも、様々な背景・要因が考えられます。例えば「塩辛く、舌がピリピリ痛かったから」や「苦手な野菜が入っていたから」「事情があって気持ちがイライラしていたから」等、様々です。子どもが「おいしくない」と言った背景・要因が分かれば、かける言葉やかかわり方も変わりますよね。本人の思いや背景等を理解するためには、本人から話を聴くことが大切だと思います。対話を重ねながら、その思いを受け止めていきたいと思えます。

視点を変えてみると？！

酷暑の中、水分が取れない(喉が渇く)状況が続いていた時に、『コップ半分の量の水』を手に入れました。あなたは、どのように感じますか？

コップに水が半分だけ…i☹

コップに水が半分も！☺



いかがですか？「水はコップに半分の量しかない(少ない)」とネガティブに捉えることも多いのではないのでしょうか。一方で「水はコップの半分の量もある(多い)」とポジティブに捉えることもできます。同じ事象・状況であっても、捉え方や見方一つで、気持ちの部分も変わってくるのではないのでしょうか。

これは、以前の教育相談だよりでお伝えした「リフレーミング」の考え方に繋がります。(詳しく知りたい方は、第6号をご覧ください。) 水が手に入りやすい、入りにくい等、置かれている状況によっても感じ方・捉え方が変わるかもしれませんね。



「理解しようとする事」+「リフレーミング」⇒プラスのかかわりへ

上記で、子どもが「おいしくない」と発したその言葉の背景・要因が分かるだけで、子どもへの「見方・かかわり方が変わる」とお伝えしました。さらにリフレーミングにより、「チャレンジできたんだね」「食べたから、おいしくないのに気づけたね」等、本人にとってもプラスに変えていけるかかわりとなれば、子どもの学びや成長につながると感じます。苦手な部分だけでなく、できている部分、強みに目を向けることも大切です。

私たち大人であっても日常生活の中で失敗をしたり、壁に突き当たったりすることがあります。そうしたとき必要なのは、その状況や思いを理解してくれる「周囲の理解と支え」だと思います。本人の思いを受け止め、あたたかいかわりができるようにしたいですね。